

○水生生物モニタリング調査結果一覧（真野川D）

<真野川D 水質底質採取項目>

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
	水質	底質	水質 (Cs)	水質 (Sr)	底質 (Cs)	底質 (Sr)
D-4 a	○	○	○	○	○	○

<真野川D 現場測定項目>

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
	緯度	経度	日	時刻 (水)	時刻 (泥)	水温 (℃)	泥温 (℃)	性状	色相	混入物	全水深 (m)	透視度 (cm)
D-4 a	37.7308°	140.9081°	R7.9.3	10:03	10:21	22.0	21.9	砂	10YR3/2	なし	0.32	>50

<真野川D 一般分析項目・放射性物質分析項目 水質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD (mg/L)	COD (mg/L)	DO (mg/L)	電気伝導率 (mS/m)	塩分	TOC (mg/L)	SS (mg/L)	濁度 (度)	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)	Sr-90 (Bq/L)
	緯度	経度	日	時刻												
D-4 a	37.7308°	140.9081°	R7.9.3	10:03	7.3	<0.5	2.7	9.0	12.7	0.06	1.5	1	0.9	N.D. (0.0016)	0.0095	0.00092

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<真野川D 一般分析項目・放射性物質分析項目 底質>

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E <sub>N.H.E</sub> (mV)	含水率 (%)	IL (%)	TOC (mg/g-dry)	土粒子の密度 (g/cm <sup>3</sup> )	粒度組成								Cs-134 (Bq/kg-dry)	Cs-137 (Bq/kg-dry)	Sr-90 (Bq/kg-dry)
	緯度	経度	日	時刻							礫 (2~75mm) (%)	粗砂 (0.85~2mm) (%)	中砂 (0.25~0.85mm) (%)	細砂 (0.075~0.25mm) (%)	シルト (0.005~0.075mm) (%)	粘土 (0.005mm未満) (%)	中央粒径 (mm)	最大粒径 (mm)			
D-4 a	37.7308°	140.9081°	R7.9.3	10:21	7.5	446	22.1	2.6	2.8	2.660	22.7	33.8	27.1	13.5	1.6	1.3	1.0	9.5	0.94	130	0.99

注) N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

<真野川D 分析項目 水生生物>

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	成長段階	特記事項			放射性セシウム(Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度											消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137		
D-3	真野川本流	37.7051°	140.9623°	R7.8.29	脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	ウグイ	18	0.28	未成魚	—	—	6.3	N.D. (0.83)	6.3	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ	100	1.5	未成魚/成魚	—	—	3.8	N.D. (0.92)	3.8	0.17	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>	カマツカ	20	0.35	未成魚/成魚	—	—	3.2	N.D. (0.27)	3.2	—	
					脊椎動物	硬骨魚	ナマズ	ナマズ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	264	4.7	未成魚/成魚	—	—	8.8	N.D. (1.3)	8.8	0.11	
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>	ボラ	6	0.065	未成魚	—	—	22	N.D. (3.1)	22	—	
					脊椎動物	硬骨魚	ナマズ	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	ナマズ	2	0.015	未成魚	—	—	N.D.	N.D. (2.7)	N.D. (3.4)	—	
D-4 b	真野川本流	37.7312°	140.9096°	R7.9.3	藻類・植物	—	—	—	—	河床付着物（藻類を含む）	—	0.019	—	—	—	6.1	N.D. (4.0)	6.1	—	
					節足動物	昆虫	トンボ	エノトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	コヤマトンボ	104	0.027	幼虫(ヤ)	—	—	3.4	N.D. (1.7)	3.4	—	
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Nihonogomphus viridis</i>	アオササエ										
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Stylogomphus suzukii</i>	オジロササエ										
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Melligomphus viridicostus</i>	オナガササエ										
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Sieboldius albardae</i>	コオニヤンマ										
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Davidius sp.</i>	ダビドササエ属										
					節足動物	昆虫	トンボ	サエトンボ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	ヤマササエ										
					節足動物	昆虫	トンボ	トンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	シオカラトンボ										
					節足動物	昆虫	トンボ	ヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	コシボソヤンマ										
					節足動物	昆虫	ヘビトンボ	ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>	ヘビトンボ										14
					節足動物	軟甲	エビ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	アメリカザリガニ	4	0.056	成体	—	—	2.9	N.D. (0.78)	2.9	—	
					節足動物	軟甲	エビ	マナガエビ	<i>Macrobrachium japonicum</i>	ヒラテテナガエビ	17	0.082	未成体/成体	—	—	3.8	N.D. (0.58)	3.8	—	
					節足動物	軟甲	エビ	ヌマエビ	<i>Paratya improvisa</i>	ヌカエビ	742	0.15	未成体/成体	—	—	2.9	N.D. (0.47)	2.9	—	
					脊椎動物	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ニホンウナギ	2	0.072	未成魚	—	—	2.2	N.D. (0.84)	2.2	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	ウグイ	10	0.26	未成魚/成魚	—	—	4.9	N.D. (0.67)	4.9	—	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ	186	1.2	未成魚	—	—	3.2	N.D. (0.35)	3.2	0.17	
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	トシヨリ	<i>Cobitis biwae</i>	シマドジョウ	19	0.045	未成魚/成魚	—	—	2.9	N.D. (1.1)	2.9	—	
					脊椎動物	硬骨魚	ナマズ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	101	1.2	未成魚	—	—	13	N.D. (1.3)	13	0.18	
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハゼ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>	オオヨシノボリ	30	0.081	未成魚/成魚	—	—	4.6	N.D. (0.73)	4.6	—	
脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハゼ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	シマヨシノボリ															
脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハゼ	<i>Rhinogobius kurodai</i>	トウヨシノボリ															
脊椎動物	硬骨魚	ナマズ	ギギ	<i>Tachysurus tokiensis</i>	ギバチ	5	0.046	未成魚/成魚	—	—										1.1
粗粒状有機物	—	—	—	—	—	—	—	—	水底落葉等	—	0.24	—	—	—	22	N.D. (1.6)	22	—		

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで濾した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N.D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。